

[講演要旨] 1925 年サンタバーバラ地震の被害と復興過程

植村善博 (佛教大学文学部)

演者はニュージーランド史上最悪の被害をだした 1931 年ホークスベイ地震 (M=7.8) の被害実態とネーピアにおける市街地の復興過程を明らかにした (植村 2008)。ネーピアの場合、サンタバーバラの地震からの復興事例を模範として市街地の建築物に統一的なデザインを採用し、アールデコタウンとして蘇生したことは注目に値する。ここでは 1925 年サンタバーバラ地震による市街地の被害実態と復興過程を明らかにする。これは地震復興にあたって、スペイン風建築デザインにより統一的に都市景観を創生した点で世界的にも最初の事例と考えられる。

1 . 地震被害 1925 年 6 月 29 日(火) 午前 8 時 44 分に M=6.3 の地震がサンタバーバラ海峡下で発生、サンタバーバラを中心に約 50km の範囲に MM 震度 ~ がおそった。サンタバーバラ市街地はミッションクリークの形成した扇状地と低位段丘の上に発達している。当時の人口は約 2 万人に達していたが、死者 13 名、負傷者は 46 名であった。電気およびガスは直後に管理者の判断で停止され、火災は発生しなかった。住宅地の木造建築は被害が軽微であるが、約 1000 件の煙突破損が生じている。中心市街地の建物被害は深刻で、全壊 18% (74 件)、損壊 62% (256 件) で、約 8 割が再建または修理が必要と判断された。とくに、レンガモルタル、石造、非強化コンクリートの建物で被害がひどく、設計と建築素材、施行技術の良いものは被害が少なかった。NE - SW 方向の水平動が卓越し、これに平行な建物側壁が大きく破壊されている。また、南部海岸付近の三角州やラグーンの埋立地で大破した建物が多く、軟弱な表層地質の関与が推定される。

2 .復興過程 地震直後の 14 時に Board of Public Safety を立上げ緊急対応に当たった。

警察と海兵隊が中心となって救助、瓦礫撤去、治安維持を担当した。7 月 1 日に迅速な復旧と復興計画を立案・実行するための Board of Public Safety and Reconstruction が議会のもとに設置された。そして、復興計画とその実施計画を決定する権限を建築物や都市景観について積極的な活動により成果をあげてきた市民組織である Architectural Advisory Committee に与えた。これには役人は参加せず、委員長に Community Art Association の代表である B.Hoffmann が任命された。彼はマサチューセッツからの新来者であったが、スペイン時代のアドビを買い取って改修したり、スペイン風建築物の保存と復旧に取り組んだ地域リーダーであった。一方、市の指導者層は地震被害が軽微であり、かつ当地の歴史的風土や文化、環境にマッチしたスペイン風建築による統一的復興を支持した。また、有力新聞 *Morning Press* も当時流行のスペイン・コロニアル・リバイバル風デザインによる統一的復興キャンペーンをおこなった。これらの方針を実現するためユニークな次の 2 組織が設置された。 Architectural Board of Review : 再建・修理に際して、耐火・耐震構造およびスペイン・コロニアルのデザインにするため、市へ提出される建築設計書類を点検する権利をもつ。約 1000 件の申請に対して約 3 分の 1 に修正を求めた。

Community Drafting Room : 設計やデザインの相談と援助をおこない、修正要求を受けた設計に対して改善にあたる機関で、と連携した方針をとり上記の方針を具体化する窓口の役割をはたした。

約 10 ヶ月後の 1926 年 3 月には中心部はスペイン・コロニアル・リバイバルの建築物による見事な都心景観をもって蘇生し、復興は一段落した。